

新型コロナウイルス感染症流行のため
ご祈祷のお申し込みはなるべく郵送でお願いします



八百万の神々が集う「神在の社」

出雲國三ノ宮 佐太神社

令和三年十一月二十日より二十五日まで

神在祭のご案内

お忌さん



入
入
入
開

お問い合わせ先

佐太神社々務所

〒690-0331 島根県松江市鹿島町佐陀宮内73

TEL / FAX (0852) 82-0668

<http://sadajinjya.jp/>

神在祭（お忌さん）は出雲地方晩秋の風物詩

旧暦十月、出雲の國には八百万の神々がお集りになることから出雲地方では神在月と云います。当社は古より「【*】かがありのやしほ神在りの社」と称えられた御社であり、いまも古伝の祭祀を守り伝えていきます。社伝によると当社は伊弉冉尊いさなのみことの陵墓りょうぼである比婆山ひばやまの神陵を遷し奉った社と伝え旧暦十月は母神である伊弉冉尊を偲んで八百万の神々が当社にお集りになるとされています。導きの神 佐太大神（猿田毘古大神）をはじめ、この祭りに集う八百万の神々の広大無辺なる御神徳・大御を戴かれますよう御参詣、御祈念のご案内を申し上げます。

神在祭神事の日程

神迎え神事 十一月二十日 午後8時～午後9時半頃まで
神等去出神事 十一月二十五日 午後8時～午後11時頃まで
止神送神事 十一月三十日

御祈願の日程

受付時間 十一月二十一日～二十四日 午前9時～午後8時まで
十一月二十五日 午前9時～午後6時まで

御祈願お申し込み方法

※今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、祈願はできるだけ郵送にてお願い申し上げます。

当日ご参拝の方 祈願申込書に必要事項をご記入の上、祈禱受付にお渡しください。

◆ 感染予防のためマスクを着用してお越しください。

◆ 37・5度以上の発熱など風邪の症状がある方は参拝をご遠慮ください。

当日参拝できない方

祈願の上、御神札を郵送いたします。ご希望の方は申込書を

郵送またはファックスにてご送付いただき郵便振替・現金書留、

その他適当な方法で初穂料をお納めください。

◆ 初穂料

五千元 壹万円 参万円 五万円 十万円以上

※参万円以上お納めの方は祭事の期間中毎日祝詞を奏上いたします。

◆ 団体様の御祈願

十名様以上の団体（会社などの法人）の方は初穂料参万円から承っております。

佐太神社神在祭講話社議員の方はこの限りではありません。

◆ 奉献酒・御神饌を御奉納の方は佐太神社社務所宛に適当な方法をもって御供えください。

奉献酒料・神饌料として御奉納頂いても結構です。別添郵便振替払込取扱票・現金書留

等にてお納めください。



佐太神社公式ホームページからも御祈願のお申し込みができます。詳しくは左記より

神在月

かみありづき

一般に十月を神無月かんなづきと云いますが出雲國では神在月かみありづきと申します。古来諸説、俗説多くありますが、神在はジンザイと読み、鎮齋ちんさい（ちなさい）すなわち忌の意味で新嘗祭にいなめさいに関係を持っていると思われます。新嘗には齋戒さいかいを厳重に行う風俗があり、新穀しんこくを神に献ずる祭を相新嘗あいになめといい十月に行っていました。大宝律令の制定後、伊勢の神宮だけは尊崇そんそうの為祭りを繰り上げて九月に行い、他は繰り下げて十一月に行った為十月は祭りが少ない月、「神無月」となったのです。しかし、出雲國では依然として十月に新穀を献ずる新嘗の祭が行われ、また風土記に載る意宇あう、秋鹿あいか、楯縫たてぬい、出雲の神名火山・神名樋山かんなびやまに神々が去来きよらいするというカンナビ信仰が結びつき出雲國特有の祭として残ったと考えられています。

御朱印

神在祭限定

「神在社龍蛇神印」を捺印します



11月25日 神在祭 神等去出神事

神等去出神事

からさでしんじ

※写真撮影等はご遠慮ください

二十五日の神送りの神等去出神事からさでしんじは社頭で祭祀の後、神職以下氏子・崇敬者が高張提灯たかはりちようちん、大幣おおへい、大神おほさかみなどを奉持ほうじし、神社から西北二キロ程離れた神ノ目山かんのめやま（高天原とも呼ぶ）の祭場へ神々をお送りします。そこに神池と呼ぶ小さな窪みがあります。祭りの期間中神社に張り巡らした注連縄と土幣十二本を用い、この池の周りを円錐形に飾り付けます。池の中に御舟を入れ、神籬ひもろぎを置き、神々をお送りします。この時、齋主は秘音で「カコ」と三度唱えます。すると神領の小鳥が三羽死に、御舟を導くという古い言い伝えがあります。次に御神木にクズコカズラを三重に巻き柳の削り懸け、桜の皮、土幣それぞれ二つずつを飾り付け、「一夜御水」（いちやぐす）と呼ぶ一夜酒をカワラケに注ぎ御神木の根元に供え、齋主は御神木の前に跪き秘音で祝詞を唱えた後、十八度の奉幣ほうへいを行います。

※祭りの内容は明応二年 佐陀大社縁起にほぼ同じ様式が記されており*4
 少なくとも約五百年の間、変わらず行われてきたといえます。*5



11月20日 神在祭 神迎神事

御神燈奉納のご案内

- ◆ 御神燈の掲揚期間…毎年十一月二十日より二十五日 佐太神社 神在祭の期間中
- ◆ 御神燈の掲揚場所…佐太神社境内・神等去出神事のご参列
- ◆ 奉納金額
 - 一燈お申し込みの場合
 - 初年度 三万円 (御神燈作成費・燈明料)
 - ※次年度より毎年燈明料五千円をお納めください。
 - 二燈お申し込みの場合
 - 初年度 五万円 (御神燈作成費・燈明料)
 - ※次年度より毎年燈明料一万円をお納めください。

二燈お申し込みの場合



- ◆ お申し込み方法
 - ※側面(左右)に当社御神紋、正面に氏名または会社名が入ります。

御神燈奉納の申込書に必要な事項をご記入の上祈禱受付にお渡しください。
佐太神社公式ホームページからもお申し込み頂けます。

※作成の都合上、九月以降にお申し込みの方は次年度からの燈明となります。



会社団体のロゴ等指定のデザインを入れる場合は社務所までご相談ください。
佐太神社々務所
(0852)82-0668 info@sadajinjya.jp
※お電話またはメールにてお問合せください。

ぜんざい発祥の地

神在餅「ジンザイ」転じて「ぜんざい」



十一月二十五日は神々をお送りする神等去出神事が執り行われます。この日はカラサデさんといわれ、神前に供えていた餅と小豆と一緒に煮て小豆雑煮を作り再び供えていました。これを「神在餅」と呼び、今も宮司宅では家例としてこの日に小豆雑煮を作り、屋敷内の祖霊社、稲荷社、邸内の歳神にお供えいたします。昔は里人の間でも一重ねのオカガミ(餅)をもって参拝後、小豆雑煮を作って家の神棚に供えてから銘々も頂く風習があったようです。この「神在餅」が転化して「ぜんざい」になったといわれています。⁶⁾「雲陽誌」などのいくつかの古文献にも記述があることから当社はぜんざい発祥の地ともいわれています。



お忌みさん期間中 賑わう参道



神在祭名物ケンボナ

- *1 貞治5年(1366年)万葉学著 由阿『詞林采葉抄』佐太神社の神在祭に関して文献上の初見
- *2 昭和8年(1933年)國學院雜誌39巻:朝山 皓 著『出雲神在祭の起源に就て』
- *3 平成7年(1995年)石塚 尊俊 著『神去来』(慶友社)
- *4 明応2年(1493年)『佐陀大社縁起』
- *5 永正9年(1512年)禰宜 宮川佐与之助 著(宮川家旧蔵)『佐陀社頭覽書』断簡
- *6 享保2年(1717年)松江藩の地誌 黒沢長尚 撰『雲陽誌』

